

◎日本財託、借り上げ社宅仲介でVR内見

日本財託は、VR(バーチャルリアリティ)を活用した借り上げ社宅の内見サービスを開始した。複数の部屋を移動しながら、床から天井、部屋の隅々までをスマートフォンやパソコンで見ることができるとい

間、転勤に伴い遠隔地から借り上げ社宅を探す場合、時間の制約から4人に1人は内見せず申し込みを行っているといわれる。そこでVRによって実際の物件を見たいという顧客のニーズに一定程度応えるほか、内見に要する時間や企業が負担する出張費用も削減できるとみている。同社は借り上げ社宅の仲介で、これまでビデオ撮影などによる内見代行を行ってきたが、360度画像を閲覧できるVRも今後は活用する。顧客がリクエストに応じて同社スタッフが室内を撮影・加工し、VRを提供する流れ。VRサービスの提供では、(株)エフマイナー(東京都渋谷区、森田博和代表取締役)が開発したVR制作クラウドソフト「3D Storyline」を利用している。